

日本の森林・世界の森林

「木材・合板博物館」見学と講演会

7月23日(水)、猛暑にもめげず、参加者46名(正会員40名、非会員6名)と担当2名が新木場に集まりました。

第1部では、約10分間の映像を見た後、2グループに分かれて、会場となった「木材・合板博物館」の見学をしました。日本や世界各地の森林と木材について、博物館の館長(東京大学名誉教授)佐藤先生に解説していただきました。さらに、ロータリーベニヤレースと合板について博物館のプロデューサー、祐川さんから実演を交えてお話をうかがいました。ロータリーベニヤレースというのは、大根のか



つらむきのように、丸太を薄くむく機械で、実際に円柱状の木材から、合板の材料となる薄いシートが作られる様子を間近に観察することができました。館内には国内外の様々な樹木の標本も豊富に展示されており、見るだけでなく、重さや、香りを確認することができました。合板の展示コーナーでは、建築材料として注目されている、強度があって、耐火性にも優れた最新の合板技術について学び、参加者からは多くの質問が寄せられていました。

第2部では、公益財団法人国際緑化推進センター専務理事の高原繁氏を講師にお招きし、同博物館のシアタールームにて、「日本の森林・世界の森林」をテーマにお話をうかがいました。

日本の三大美林、明治神宮の森、日光杉並木、日本の森林作りの歴史などはガイドとして大変興味深い話題でした。世界の森林やCO2削減などのグローバルなテーマでは、単に日本との比較にとどまらず、国によっては森林の減少が非常に深刻であることが紹介され、問題の大きさを実感しました。日本の森林面積はここしばらくは一定の水準が保たれており、森林率世界第2位を維持していることは喜ば



しい事です、十分に成長した木は、もっと伐採して木材として利用し、そこに若い木を植え育てること(森林の循環利用)が必要だそうです。最後に、都内にある、最新の木造建築技術を使った観光施設をご紹介いただきましたので、今度お客様をご案内する時は、その耐震性や耐火性をアピールできると思いました。Q&Aの時間には多くの質問が出て、時間を延長しお答えいただきました。たくさんのグラフや写真を使ったプレゼンテーションは、配布資料としてコピーを頂くことができましたので、しっかり復習して今後のガイドに役立てたいです。

尚、本研修にあたり、木材・合板博物館様には多大なご厚誼を賜りました。ここに感謝申し上げます。